

高知県感染症発生動向調査（週報）

2015年 第28週 （7月6日～7月12日）

★お知らせ

○手足口病に気を付けて！

定点医療機関からの報告数は第27週の2.10から第28週は2.27とほぼ横ばいです。安芸、高知市、中央西、中央東で増加しています。須崎では警報値を超えています。また、安芸では注意報値を超え、高知県全域でも注意報値を超えています。病原体検出情報では手足口病の原因となるCoxsackievirus A16が検出されています。

手足口病は合併症として、心筋炎や髄膜炎を起こすことがあります。これから注意が必要な時期になりますので、食事前やトイレ後の手洗いなど、感染予防対策を心がけてください。

この病気は、4歳くらいまでの幼児を中心に夏季に流行が見られる疾患であり、2歳以下が半数を占めますが、学童でも流行的発生がみられることがあります。

学童以上の年齢層の大半はすでにこれらのウイルスの感染（不顕性感染も含む）を受けている場合が多いので、成人の発症はあまり見られません。

通常は3～5日の潜伏期において、口の中、手のひら、足の裏や足背などに2～3mmの水疱性発疹ができ、時に肘、膝、臀部などにも出現します。

ごくまれに髄膜炎や脳炎などを生じることがありますので、高熱や嘔吐、頭痛などがある場合は注意してください。

また、倦怠感や口腔内の痛みなどから食事や水分を十分にとれず、脱水になることもありますので、こまめな水分補給を心がけてください。

回復後にも2～4週間の長期にわたり便からウイルスが検出されることがあるので、幼稚園、保育園、学校など集団生活ではタオル・コップ等を共用することは避けましょう。特に、外出後、食事の前、トイレの後に手洗いをしましょう。

○A群溶血性レンサ球菌咽頭炎に気を付けて！

定点医療機関からの報告数は第27週の2.63から第28週では2.57とほぼ横ばいですが、高知市、安芸で増加し、高知市では注意報値を超えています。過去5年間の同時期と比較してかなり高い値が続いており、引き続き注意が必要です。

通常、患者との接触を介して伝播するため、ヒトとヒトとの接触の機会が増加するときに起こりやすく、家庭、学校などの集団での感染も多くなります。乳幼児では咽頭炎、年長児や成人特に妊婦では扁桃炎が現れ重症化することもあるため、うがい、手洗いなどの一般的な予防法を励行しましょう。

○感染性胃腸炎に気を付けて！

定点医療機関からの報告数は第27週の3.13から第28週では3.17と横ばいですが、安芸、中央西、中央東で増加しています。今後も手洗いの徹底等の感染予防をしてください。

○ヘルパンギーナに気を付けて！

定点医療機関からの報告数は第27週の0.87から第28週では0.93とほぼ横ばいですが、中央西、中央東で増加し、中央西では注意報値を超えています。

突然の発熱と口腔粘膜の水疱性発疹を特徴とし、夏期に流行する小児の急性ウイルス性咽頭炎です。いわゆる夏かぜの代表疾患で、その大多数はエンテロウイルス属、流行性のもは特にコクサッキーウイルスA2、3、4、5、6、10型などにより起こります。感染は、飛沫、経口及び接触感染です。

感染症予防の基本は、

★★★手洗いから★★★

調理時や食事前、トイレの後は石けんと流水でしっかり手を洗いましょう。



マダニからの感染症

＜重症熱性血小板減少症候群（SFTS）・日本紅斑熱 など＞

春から秋にかけて山菜採り、キャンプ、ハイキング、登山、ゴルフ、農作業など山や草むらで活動する機会が多くなる季節です。野山に生息するダニなどに刺されることで感染症を引き起こすことがあります。

吸血中のマダニを見つけたら、早めに取り除くことが肝心です。簡単に取り除けないことが多いので、できるだけ医療機関を受診し処置を受けて下さい。

マダニから身を守る方法

野外では、腕・足・首など、肌の露出を少なくしましょう！シャツの袖口は手袋や軍手の中に入れる。ズボンの裾は長靴の中に入れる。ガムテープを使って服に付いたダニを取り除く。マダニ用忌避剤を使用する。

発熱等がでたとき

刺されてからしばらくして（数日～2週間程度）発熱等の症状が出た場合、医療機関を受診して下さい。また受診の際、発症前に野山に立ち入ったこと（ダニに刺されたこと）を申し出て下さい。

★県内での感染症発生状況

定点把握感染症（上位疾患） ↑：急増 ↗：増加 →：横ばい ↘：減少 ↓：急減
28週（7月6日～7月12日）

疾病名	推移	定点当たり報告数	県内の傾向
感染性胃腸炎	→	3.17	安芸、中央西、中央東で増加しています。
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	→	2.57	高知市、安芸で増加し、高知市では注意報値を超えています。
手足口病	→	2.27	安芸、高知市、中央西、中央東で増加しています。須崎では警報値を超え、安芸では注意報値を超えています。高知県全域では注意報値を超えています。
ヘルパンギーナ	→	0.93	中央西、中央東で増加し、中央西では注意報値を超えています。
突発性発疹	↗	0.63	中央東、中央西、安芸で増加しています。

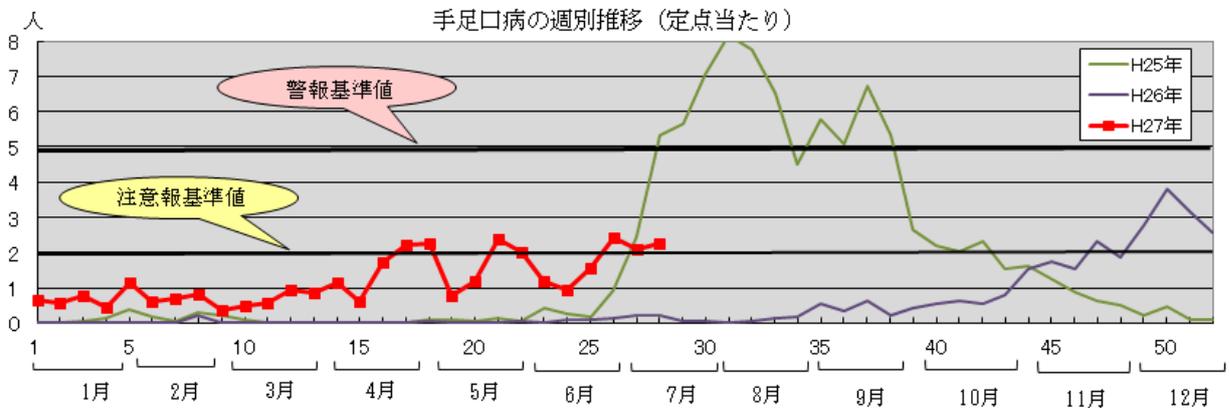
★地域別感染症発生状況



★気をつけて！

○手足口病：2.27（注意報値：2.00 警報値：5.00）

定点医療機関からの報告数は定点当たり 2.27（前週 2.10）と横ばいです。地域別にみると安芸 4.50（前週：3.50）、高知市 1.82（前週：1.00）、中央西 1.67（前週：0.67）中央東 1.57（前週：0.71）、で増加しています。須崎では警報値を超えています。安芸では注意報値を超え、高知県全域でも注意報値を超えています。



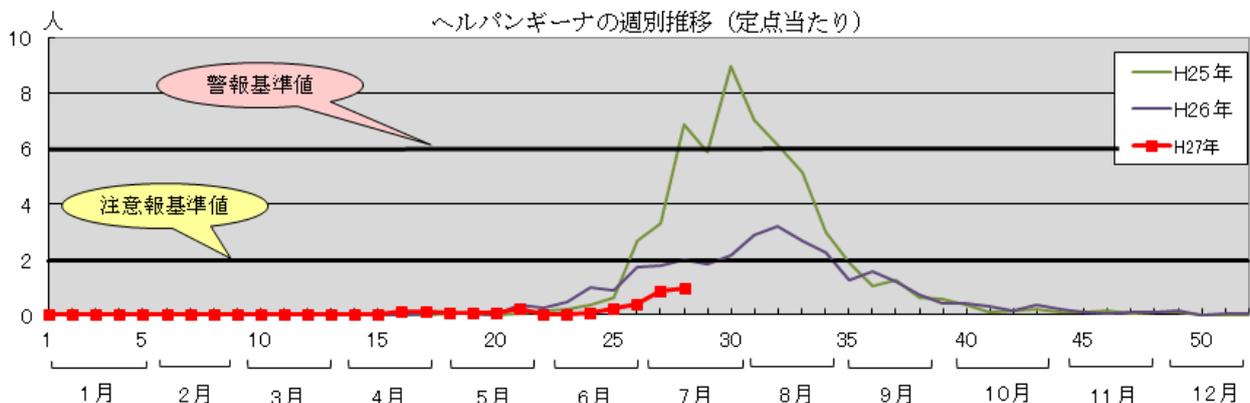
○A群溶血性レンサ球菌咽頭炎：2.57（注意報値：4.00 警報値：8.00）

定点医療機関からの報告数は定点当たり 2.57（前週 2.63）とほぼ横ばいです。地域別にみると高知市 4.55（前週：4.09）、安芸 1.00（前週：0.00）で増加しています。高知市では注意報値を超えています。



○ヘルパンギーナ：0.93（注意報値：2.0 警報値：6.0）

定点医療機関からの報告数は定点当たり 0.93（前週：0.87）とほぼ横ばいです。地域別にみると中央西 4.33（前週：3.00）、中央東 0.57（前週：0.29）で増加しています。中央西では注意報値を超えています。



★病原体検出情報

受付週	臨床診断名	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
28	急性上気道炎	1	男	中央東	Parainfluenza virus 3
28	急性上気道炎	1	男	中央東	Parainfluenza virus 3
28	急性気管支炎	3	女	中央東	Parainfluenza virus 3
28	喘息性気管支炎	5ヶ月	女	須崎	Parainfluenza virus 3
28	感染性胃腸炎	6	男	須崎	Sapovirus genogroup unknown
28	感染性胃腸炎	1	女	須崎	Sapovirus genogroup unknown

前週以前に搬入

受付週	臨床診断名	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
27	感染性胃腸炎	1	女	高知市	Adenovirus 1
					Coxsackievirus A16
27	急性上気道炎	4	女	須崎	Adenovirus 1
27	手足口病	1	男	高知市	Coxsackievirus A16
27	不明発疹症	10ヶ月	男	須崎	Coxsackievirus A16
27	サイトメガロ肝炎	5ヶ月	女	中央東	Cytomegalovirus
27	不明発疹症	8ヶ月	女	須崎	Cytomegalovirus
27	不明発疹症	2	女	須崎	Cytomegalovirus
27	新生児発熱	0ヶ月	女	高知市	Echovirus 18
27	不明発疹症	3	男	須崎	Echovirus 18
27	不明発疹症	2	男	須崎	Echovirus 18
27	不明発疹症	9	男	須崎	Epstein-Barr virus
27	脳炎	18	男	高知市	Herpes simplex virus 1
27	不明発疹症	1	女	高知市	Human herpes virus 6
27	脳炎	8ヶ月	男	高知市	Human herpes virus 6
27	不明発疹症	4	女	須崎	Human herpes virus 7
27	乳児喘息	1	男	須崎	Parainfluenza virus 3
27	不明熱	4	女	須崎	Parainfluenza virus 3
27	感染性胃腸炎	1	女	高知市	Rotavirus group A G3※27週検出報告遅れ

★全数把握感染症

類型	疾病名	件数	累計	内容	保健所
2類	結核	1	81	80歳代(女)	中央東
		1	82	70歳代(男)	
4類	レジオネラ症	1	2	60歳代(男)	高知市
5類	後天性免疫不全症候群	1	4	60歳代(男)	中央東
		1	5	40歳代(男)	

★定点医療機関からのホット情報

保健所	医療機関	情 報
安 芸	田野病院小児科	マイコプラズマ肺炎 1 例 (10 歳男)
中央東	あけぼの小児科クリニック	マイコプラズマ感染症 2 例 (14 歳、18 歳)
高知市	高知医療センター小児科	A 群レンサ球菌 1 例 (2 歳男)
		病原性大腸菌 4 例 (0 ヶ月男 2 人、6 ヶ月男 2 人)
	けら小児科・アレルギー科	ロタウイルス腸炎 5 例 (2 歳男、3 歳男 2 人、3 歳女、4 歳男)
		アデノウイルス扁桃炎 2 例 (3 歳男、4 歳女)
		カンピロバクター腸炎+病原性大腸菌 (0-1) 1 例 (12 歳女)
		カンピロバクター腸炎 3 例 (4 歳男、14 歳男、15 歳男)
		病原性大腸菌 0-1 腸炎 3 例 (6 歳女 2 人、8 歳男)
病原性大腸菌 0-111 腸炎 1 例 (3 歳女)		
中央西	くぼたこどもクリニック	手足口病 1 例 (4 歳女：須崎市)
		溶連菌 1 例 (11 歳男：津野町)
須 崎	もりはた小児科	滲出性扁桃炎 (アデノウイルス) 2 例 (4 歳女 2 人)
幡 多	さたけ小児科	マイコプラズマ感染症 2 例 (9 歳男、12 歳男)

★全国情報

第26週 (6/22～6/28)

1類感染症：報告なし

2類感染症：結核406例

3類感染症：細菌性赤痢3例、腸管出血性大腸菌感染症105例

4類感染症：E型肝炎1例、A型肝炎6例、重症熱性血小板減少症候群4例、チクングニア熱1例、つつが虫病1例、デング熱1例、日本紅斑熱3例、マラリア1例、レジオネラ症37例

5類感染症：アメーバ赤痢15例、ウイルス性肝炎2例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症14例、急性脳炎5例、クロイツフェルト・ヤコブ病3例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症7例、後天性免疫不全症候群20例、侵襲性インフルエンザ菌感染症1例、侵襲性肺炎球菌感染症17例、水痘(入院例に限る) 5例、梅毒47例、播種性クリプトコックス症2例、破傷風1例、風しん2例

報告遅れ：E型肝炎2例、チクングニア熱1例、デング熱1例、日本紅斑熱1例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症15例、急性脳炎4例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症2例、水痘(入院例に限る) 7例、播種性クリプトコックス症1例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症1例

◆伝染性紅斑 (ヒトパルボウイルスB19感染症)

伝染性紅斑 (erythema infectiosum) は、ヒトパルボウイルスB19 (Human parvovirus B19) を病原体とし、幼児、学童の小児を中心にみられる流行性の発疹性疾患である。典型例では両頬に蝶翼状の紅斑が出現することが特徴的で、リンゴのように赤くなることから「リンゴ(ほっぺ)病」と呼ばれることもあるが、本疾患の約4分の1程度は不顕性感染である。

本疾患の特徴的な症状は、感染後10～20日の潜伏期間を経て出現する両頬の境界鮮明な紅斑であり、続いて腕、脚部にも両側性に網目状・レース様の発疹がみられる。体幹部(胸腹背部)にもこの発疹が出現することがある。この潜伏期間を過ぎる前の、感染後約1週間で、約半数にインフルエンザ様症状などを呈することがある(倦怠、発熱、筋肉痛、鼻汁、頭痛、掻痒症など)。この時期にウイルス血症を起こしており、ウイルスの体外への排泄量は最も多くなる。発熱はあっても軽度である。発疹出現時期を迎えて伝染性紅斑と臨床的に診断された時点は抗体を産生する頃であり、ウイルス血症はほぼ終息し、既に周囲への感染性は殆どないといわれている。発疹は1週間前後で消失するが、一度消えた発疹が短期間のうちに日光や熱(入浴や運動など)により再出現することがある。成人では両頬の蝶形紅斑は少ない。非典型例の鑑別診断として風疹は重要である。

ヒトパルボウイルスB19感染症の典型的な臨床像が伝染性紅斑であり、基本的には予後良好であるが、他に

も多彩な臨床像が知られる。関節痛・関節炎がみられることがあり、小児より成人、男性より女性に多く、数日から数カ月に及ぶ場合がある。また、妊婦が感染すると、垂直感染を呈し、流産や死産、胎児水腫を起こすことがある。なお、伝染性紅斑を発症した妊婦から出生し、ヒトパルボウイルスB19感染が確認された新生児でも妊娠分娩の経過が正常で、出生後の発育も正常であることが多い。さらに、生存児での先天異常は知られていない。その他、鎌状赤血球症などの溶血性貧血患者が感染した場合に貧血発作 (aplastic crisis) を引き起こしたり、免疫不全者が感染すると、重症で慢性的な貧血を引き起こしたりする場合がある。

感染経路は通常は飛沫感染もしくは接触感染であるが、まれにウイルス血症の時期に採取された血液製剤からの感染の報告がある。

伝染性紅斑は、感染症発生動向調査では5類定点把握疾患に分類され、全国約3,000カ所の小児科定点からの報告に基づいて動向を収集・分析されている疾患である。伝染性紅斑の報告数は例年夏季に増加し、第26週前後でピークとなることが多い。伝染性紅斑は1982年よりその発生動向の調査が開始されている。報告数のピークが高く、比較的大きな流行となったのは、感染症法施行以前では1987年、1992年、1997年、同施行後においては2001年、2007年、2011年であり、ほぼ4～6年ごとの周期で大きな流行を迎えていた。2014年末にかけて、やや増加を認めていたが、2015年に入り、第2週から定点当たり報告数が数週間増加後、一旦減少したが、第12週頃から再び増加傾向が明らかとなり、現在まで継続している。2015年第26週の伝染性紅斑の定点当たり報告数は1.12 (報告数3,522) となり、第26週としては過去10年間で最高であり、また、1週間の定点当たり報告数としては前回全国的に流行した2011年第25週の定点当たり報告数1.47 (報告数4,629) に次ぐものであった。

2015年第1～26週までの定点当たり累積報告数は14.21 (累積報告数44,728) であり、2005年以降の同期間では2011年の18.84、2007年の18.68に次いで多くなっている。

都道府県別の2015年第26週の定点当たり報告数は、滋賀県 (2.91)、長野県 (2.54)、埼玉県 (2.53)、福島県 (2.41)、大分県 (2.03) の順となっている。39都府県で前週よりも増加がみられており、特に栃木県、佐賀県では定点当たり1以上の増加となっている。また、2015年に入ってからのおよそ1週ごとの定点からの報告数の推移を見ると、人口の多い関東地方 (茨城県、栃木県、群馬県、千葉県、東京都、神奈川県) からの占める割合が全体の50%前後を占めることが大半であったが (第26週においても数としては依然増加傾向にある)、第23週以降は伝染性紅斑報告数に占める全国の定点からの関東地方の割合はむしろ低下傾向であり、第26週では41%となった。

2015年第1週から第26週までの定点からの累積報告数における年齢群別割合をみると、5歳の17%を最多に3～7歳までの各年齢でそれぞれ10%を超え、7歳以下で全報告数の80%を、9歳以下で90%以上を占めているのは例年と同様である。

2015年の伝染性紅斑の流行は、2011年以来の流行となり、例年の傾向から現在そのピークを迎えつつあるものと推測される。これまで流行の中心であった関東地方に加えて、関東以外の地域における報告数の増加に対しても注意が必要である。

伝染性紅斑は多彩な臨床像を呈する疾患であり、また、不顕性感染も一定程度存在することから、届出のあった症例以外にも感染者が存在すると思われる。本症は発疹出現時期には殆ど感染力を消失しているが、反対にウイルス排泄時期には特徴的な症状を呈さず診断に至らないため、その対策は容易ではない。特に溶血性貧血を基礎疾患に持つもの、免疫不全のあるもの、そして妊婦に対して、本疾患の流行に関する情報を提供することが重要である。流行地域の家庭内で調子を崩している小児を妊婦がケアをする場合においては通常以上の手洗いの徹底や、食器の共有をしないこと、本疾患が流行している保育園や学校などに対しては、流行が終息するまでの間、妊婦等は施設内に立ち入らないこと、などを考慮すべきである。今後しばらくの間、全国の伝染性紅斑の発生動向には注意が必要である。

中東呼吸器症候群 (MERS) について : 厚生労働省HP

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/mers.html>

高知県感染症情報(58定点医療機関)

第28週 平成27年7月6日(月)～平成27年7月12日(日)

高知県衛生研究所

定点名	疾病名	保健所	第28週					計	前週	全国(27週)	高知県(28週末累計)		全国(27週末累計)	
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎				幡多	H26/12/29～H27/7/12	H26/12/29～H27/7/5	
インフルエンザ	インフルエンザ				1			1	2 (0.04)	6 (0.13)	513 (0.10)	15,327 (319.31)	1,147,289 (232.76)	
小児科	咽頭結膜熱							5	5 (0.17)	9 (0.30)	2,115 (0.67)	98 (3.27)	37,602 (11.95)	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2	7	50	2	5	11	77 (2.57)	79 (2.63)	9,371 (2.97)	1,891 (63.03)	232,558 (73.90)		
	感染性胃腸炎	12	23	35	10	2	13	95 (3.17)	94 (3.13)	16,651 (5.28)	4,431 (147.70)	577,212 (183.42)		
	水痘		4	3	1	1	4	13 (0.43)	5 (0.17)	1,262 (0.40)	328 (10.93)	43,003 (13.66)		
	手足口病	9	11	20	5	18	5	68 (2.27)	63 (2.10)	17,294 (5.48)	1,038 (34.60)	100,902 (32.06)		
	伝染性紅斑		5	6				11 (0.37)	7 (0.23)	3,147 (1.00)	72 (2.40)	47,875 (15.21)		
	突発性発疹	1	6	7	2		3	19 (0.63)	15 (0.50)	1,927 (0.61)	379 (12.63)	43,676 (13.88)		
	百日咳							()	()	92 (0.03)	9 (0.30)	1,220 (0.39)		
	ヘルパンギーナ		4	8	13	1	2	28 (0.93)	26 (0.87)	6,045 (1.92)	101 (3.37)	23,099 (7.34)		
	流行性耳下腺炎	5	2	2			3	12 (0.40)	6 (0.20)	1,723 (0.55)	485 (16.17)	30,537 (9.70)		
RSウイルス感染症		1	2				3 (0.10)	3 (0.10)	324 (0.10)	416 (13.87)	29,807 (9.47)			
眼科	急性出血性結膜炎							()	()	5 (0.01)	()	242 (0.35)		
	流行性角結膜炎							()	1 (0.33)	575 (0.84)	7 (2.33)	9,400 (13.70)		
基幹	細菌性髄膜炎							()	()	3 (0.01)	5 (0.63)	210 (0.44)		
	無菌性髄膜炎							()	()	16 (0.03)	8 (1.00)	401 (0.84)		
	マイコプラズマ肺炎		1	1			3	5 (0.63)	5 (0.63)	143 (0.30)	118 (14.75)	3,032 (6.38)		
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)							()	()	8 (0.02)	27 (3.38)	180 (0.38)		
	感染性胃腸炎							()	()	24 (0.05)	67 (8.38)	3,883 (8.17)		
計(小児科定点当たり人数)	29 (14.50)	64 (9.00)	135 (12.16)	33 (11.00)	27 (13.50)	50 (9.33)	338 (11.08)		61,238	24,807 (627.58)	2,332,128			
前週(小児科定点当たり人数)	16 (8.00)	48 (6.85)	138 (12.00)	27 (9.01)	42 (21.00)	48 (9.15)		319 (10.36)						

注 ()は定点当たり人数。

高知県感染症情報(58定点医療機関)定点当たり人数

定点名	疾病名	保健所	第28週					計	前週	全国(27週)	高知県(28週末累計)		全国(27週末累計)	
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎				幡多	H26/12/29～H27/7/12	H26/12/29～H27/7/5	
インフルエンザ	インフルエンザ				0.06			0.13	0.04	0.13	0.10	319.31	232.76	
小児科	咽頭結膜熱							1.00	0.17	0.30	0.67	3.27	11.95	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.00	1.00	4.55	0.67	2.50	2.20	2.57	2.63	2.97	63.03	73.90		
	感染性胃腸炎	6.00	3.29	3.18	3.33	1.00	2.60	3.17	3.13	5.28	147.70	183.42		
	水痘		0.57	0.27	0.33	0.50	0.80	0.43	0.17	0.40	10.93	13.66		
	手足口病	4.50	1.57	1.82	1.67	9.00	1.00	2.27	2.10	5.48	34.60	32.06		
	伝染性紅斑		0.71	0.55				0.37	0.23	1.00	2.40	15.21		
	突発性発疹	0.50	0.86	0.64	0.67		0.60	0.63	0.50	0.61	12.63	13.88		
	百日咳									0.03	0.30	0.39		
	ヘルパンギーナ		0.57	0.73	4.33	0.50	0.40	0.93	0.87	1.92	3.37	7.34		
	流行性耳下腺炎	2.50	0.29	0.18			0.60	0.40	0.20	0.55	16.17	9.70		
RSウイルス感染症		0.14	0.18				0.10	0.10	0.10	13.87	9.47			
眼科	急性出血性結膜炎									0.01		0.35		
	流行性角結膜炎								0.33	0.84	2.33	13.70		
基幹	細菌性髄膜炎									0.01	0.63	0.44		
	無菌性髄膜炎									0.03	1.00	0.84		
	マイコプラズマ肺炎		1.00	0.20			3.00	0.63	0.63	0.30	14.75	6.38		
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)									0.02	3.38	0.38		
	感染性胃腸炎									0.05	8.38	8.17		
計(小児科定点当たり人数)	14.50	9.00	12.16	11.00	13.50	9.33	11.08			627.58				
前週(小児科定点当たり人数)	8.00	6.85	12.00	9.01	21.00	9.15		10.36						

発行：高知県感染症情報センター（高知県衛生研究所）
 〒780-0850 高知市丸ノ内2-4-1（保健衛生総合庁舎2階）
 TEL：088-821-4961 FAX：088-825-2869